高砂市子ども読書活動推進計画

２０１６年２月

高　砂　市

はじめに



子どもたちは、かけがえのない宝です。

その子どもたちを取り巻く社会環境は、スマートフォン、携帯電話、ゲームやインターネットなどの映像メディアの普及などにより大きく変化しています。

読書以外のことに時間を取られ、心を成長させる本と出合う機会が少なくなっている状況の中、私たちは読書をする喜びや感動を子どもたちに伝えていかなければなりません。

心に深く残る読書は、自ら考え、判断し、行動する土壌となります。私は、未来を担う子どもたちが、素晴らしい本と出会い、読書を通じて健やかに、たくましく成長していくことを心から願っています。

このたび策定しました「高砂市子ども読書活動推進計画」は、平成３２年度を目標年度に、子どもの読書活動を市が一体となって推進することにより、すべての子どもが本を読む喜びを味わい、自主的な読書活動を通じて感性豊かに育つ読書環境づくりを進めるうえでの基本方針、具体的な取組と目標を示しています。

今後は、この計画に基づき保護者をはじめ家庭、学校、地域、図書館等がそれぞれの役割を担う中で連携を図り、子どもの読書活動を推進してまいりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申しあげます。

また、２月１４日に念願であった新図書館がオープンいたします。児童書コーナーの充実も図っており、多くの皆様にご利用いただき、地域を支える情報拠点として、子どもの読書活動をはじめ、市民一人ひとりの文化の創造、学ぶ意欲の向上を支援してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケート調査にご協力をいただきました皆様、並びに貴重なご意見を賜りました皆様に心からお礼を申しあげます。

平成２８年２月

高砂市長　登幸人

目　次

１　計画策定の趣旨
（１）子どもの読書環境の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）読書活動の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（３）読書活動推進に関する動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　本市における子ども読書活動の現状と課題
（１）家庭における読書活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（２）園・学校における読書活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
（３）地域における読書活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

３　計画の基本的な考え方
（１）基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（２）基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（３）計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（４）計画の対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（５）計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
（６）計画の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

４　読書活動推進のための具体的な取組
（１）計画の体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（２）家庭・学校・地域等における子ども読書活動の推進・・・・・・・・・・１０
（３）施設等の環境整備、関係機関の連携・協力・・・・・・・・・・・・・・１３
（４）子ども読書活動の普及・啓発、人材育成・・・・・・・・・・・・・・・１５
（５）各施策、事業一覧と目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

５　資料編
（１）子ども読書活動に関するアンケート実施状況
（２）子ども読書活動に関するアンケート調査結果
（３）子どもの読書活動の推進に関する法律

１　計画策定の趣旨

（１）子どもの読書環境の変化

子どもの読書環境は、めまぐるしく進化する情報化社会の影響を受けて、大きく変化しています。テレビ、ＤＶＤ、ゲーム等の映像メディアの発達・普及は、幼児期からの読書に親しむ機会を少なくさせるなど、子どもの読書離れに大きな影響を与えています。また、インターネットやスマートフォン、携帯電話の普及は、情報の取得を容易にし、世界の人々と情報を交換したり、知識を共有できたりといった利点がありますが、人と人の直接的な対話や触れ合いの機会を希薄にしたり、携帯依存やネット依存などの新しい問題も引き起こしており、本を読んで調べたり、読書をしたりする機会が減少する一因となっています。

近年、電子書籍の出版が増えており、読書環境に与える影響についても考えていく必要があります。

このように、子どもたちの生活の中にさまざまな情報が氾濫し、読書環境が変化している現代社会において、改めて子どもたちの成長に読書活動がもたらす意義について考えることが重要です。

（２）読書活動の意義

子どもの育成に読書がもたらす力は、読書環境が変化してもかけがえのないものであり、未来を担う子どもたちにとって、読書は単なる娯楽や趣味の範囲を超えた大きな影響力があります。

読書は、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにし、子どもたちが人生をより深く生きていくために欠くことのできないものです。

子どもは様々な本と出会い、その中で喜びや悲しみを味わいながら、命あるものへの優しさ、困難に立ち向かう勇気、自立心などの豊かな心を育みます。

また、読書は、先人の知恵や知識を読者に与え、更なる知る喜びを得るための探究心を養います。

読書によって育成された読解力や表現力は、考える力を養い、コミュニケーション能力など社会生活や人間関係を円滑にする基礎となります。このように読書は、子どもたちの健やかな成長に欠くことができないものであり、豊かな人生を送るためにも、なくてはならないものです。

（３）読書活動推進に関する動向

子どもの読書活動を社会全体で支援するため、平成１３年１２月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、この法律に基づき国においては平成１４年８月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定さ

れるとともに、兵庫県でも「ひょうご子どもの読書活動推進計画」が平成１６年３月に策定、平成２１年９月に第２次改定、平成２７年３月には第３次の改定がされました。

高砂市では、図書館において絵本の読み聞かせやおはなし会などの子ども向け行事を開催し、本に親しむ機会を提供するとともに、平成２５年４月からブックスタート事業を実施しています。

また、保育園・幼稚園・小学校では、読み聞かせなどの読書活動に取り組むほか、小・中学校では、学校図書館図書の整備に努めるとともに、学校図書館司書教諭の充実や全校一斉の読書活動を進めるなど、学校等での読書活動の充実に努めています。

しかし、少子化、核家族化などに伴い、生活環境が大きく変化しているなか、余暇時間の過ごし方も多様化し、大人自身が読書する機会が減り、子どもに対しても小さい頃からの読書の習慣づけが十分とは言えなくなってきています。

全国学校図書館協議会の調査（平成２６年６月）でも、不読率（１か月間に１冊も本を読まなかった「不読者」の割合）は、小学生が３．８％、中学生が１５．０％、高校生が４８．７％となっており、その改善が求められています。

このようなことから子どもの読書活動を、「生きる力」を育む重要な要素としてとらえ、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携・協力し合って、子どもが本を楽しみ自主的に読書を行う環境を整備することをめざして、「高砂市子ども読書活動推進計画」を策定するものです。

２　本市における子ども読書活動の現状と課題

（１）家庭における読書活動の支援

①取組の状況

本市では、赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくり心触れ合うひとときをもつきっかけをつくることを目的として、平成２５年４月より、毎月保健センターで行われる３～４か月の乳児保健相談日に乳児及びその保護者を対象にブックスタート事業を実施しています。図書館、図書館ボランティア、子育て支援センター、保健センターが協力して、受診者に絵本の読み聞かせをしたり、絵本を展示し手にとって読んでもらったり、「乳幼児のためのブックリスト」を配ったりして、絵本を通して親子のふれあいをもつことの大切さを伝えています。

子育て支援センターでは、子育て中の保護者の方へボランティアによるおはなしルーム（読み聞かせ、おはなし会）を開催し、読み聞かせの大切さ、親子の触れ合い遊び（わらべうた、手遊び）を提供し、家庭でも親子触れ合い遊びが楽しめるよう取り組んでいます。また、保護者に対して、子どもの発達に応じた絵本を紹介し、子育てや読み聞かせ推進に関する情報提供を行っています。

保育園では、親子でコミュニケーションの時間を過ごしてほしいと願い、家庭に絵本の貸し出しを行っています。

幼稚園では、家庭でも読書や読み聞かせができるように、保護者に対しても図書を紹介するなど、読書を楽しむことができるような働きかけをしています。

②家庭における読書活動の課題

家庭は、乳幼児に絵本を読んであげることができる最初の場所であり、愛情をもって絵本を読んでくれる人がいる場所です。家庭がぬくもりや安らぎの場となり、その後の子どもの心の健全な成長を促したり、読書習慣を身に付けたりするうえで、家庭における読書の役割は極めて重要です。

しかし、核家族化が進むなか、保護者の子育てに対する考え方も多様で、子どもたちの置かれている家庭環境は様々です。子どもが読書習慣を身に付けていくうえで、一番初めに影響を受けるのが家庭であり、家庭での読書環境が整備されるよう保護者に対して啓発を行うとともに、家庭での読書活動を推進するための支援を行うことが必要です。

（２）園・学校における読書活動

①取組の状況

保育園では、子ども達が興味関心をもったことを調べたり、学んだりできる

ように常に子どもの身近なところに図鑑や読みたい絵本を設置しています。また、保育指針に記されている内容を満たすよう保育の中で絵本の読み聞かせや乳幼児に読んであげることで、ぬくもりや安らぎの場を提供し、子どもの心の健全な育成を促すとともに、おはなしボランティアによる絵本の読み聞かせや素話、わらべうた、手遊びなど、絵本を通して楽しくお話の世界に出会う機会を作っています。

幼稚園では、図書室から毎週１冊絵本の貸出しをしている。図書カードを作成し、年間３０冊以上の絵本を家庭に持ち帰って、家族と一緒に絵本を楽しんだ履歴が残るようにしています。また、おはなしボランティアによる読み聞かせは、詩、絵本、素話、などを通しておはなしの世界への導きとなっています。

小学校では、朝の読書の時間を設け、落ち着いて読書する取組を行っています。学校図書館担当教諭の指導のもと、図書の貸し出しを行ったり、ボランティアグループや保護者による読み聞かせをきっかけとして、発達段階に応じた図書の紹介を行ったりして、進んで読書をする環境を整えています。

中学校では、小学校と同様に、朝の読書の時間を設け、落ち着いて読書する取組を行っています。生徒が図書の貸し出しを行ったり、本の紹介をしたりすることで、読書に対する興味や関心を高める工夫をしています。

②園・学校における読書活動の課題

各学校においては、朝の始業前に１０分から１５分程度の読書の時間を設定し、全校児童生徒が一斉に読書をしています。しかし、朝の会や連絡の時間が、読書の時間に食い込んでしまったり、学級指導の時間に代わってしまったりする場合もあり、読書の時間が徹底できているとは言い切れません。読書に対する教師の意識の向上も求められます。また、基礎学力を定着させるために、週に何度か、朝の始業前の時間を漢字や計算等の練習に使いたいと考える学校も増えつつあります。

中学校においては、部活動があるため、昼休みしか図書室を開館できない状態にあり、今後中学校給食の開始が検討される中で、図書室の開館時間の確保が大きな課題になってきます。

充足率が高まり、図書管理システムが導入される中、どのように読書活動を活性化させていくか、各学校の工夫が問われています。

（３）地域における読書活動

①取組の状況

図書館では、蔵書冊数約１１万冊のうち、児童書は約３万７千冊で、全体の約３３％を占めています。貸出者数は、児童（小学生以下）が約８０００人（全体の約３２％）、貸出冊数は、児童書が約２万５千冊（全体の約３５％）となっています（平成２６年度）。毎月第１土曜日には、３～４歳からの幼児を対

象に「えほんのじかん」を、第２土曜日には、５～６歳からの幼児・児童を対象に「おはなし会」を実施しています。図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせやストーリーテリング、わらべうたなど内容も豊富で、参加した子どもが本の世界に楽しく出会う機会をつくっています。

子どもや保護者をはじめ、子どもの読書活動に関わる人に、読書のきっかけづくりや本を選ぶときの参考になるように、「じどうしつだより」や「おすすめ本リスト」を作成して、新しい本や季節の行事にちなんだいろいろな本の紹介をしています。

あわせて、子ども読書の日やひなまつり、七夕、クリスマス等、さまざまな行事にちなんだ展示を行うとともに、関連する本を集めてコーナー展示をしています。園・学校に対しては、保育園や幼稚園、小学校、学童保育所等の団体へ絵本や読み物、図鑑などの図書資料をまとめて貸出しています。

子どもの身近な場所でより多くの本と出会えるように利用の充実に努めています。

また、高砂市では、放課後子ども教室の取組の中で、図書館ボランティアによる「おはなし会」を実施しています。

現在、市内の４小学校において、１～２年生の希望者を対象に、平日の放課後、学校の特別教室を借用し、１教室３０人程度の児童が入室しています。話者は２人で、詩の朗読とストーリーテリング、絵本の読み聞かせを交替で行っており、所要時間は約３０分です。募集人数の制限は特に設けていませんが、参加児童は４校あわせて、１年生が１０９人、２年生が６７人です（平成２６年度)。希望者の募集は４月に行い、参加者の登録をした後、５月から月１回、年間１０回実施しています。

学童保育所では、市立図書館の団体貸出制度を利用し、月に１～２回、２０～３０冊程度の本を借りて、子どもたちが読書を楽しむ機会の充実を図っています。平成２５年度からは、すべての学童保育所で１０冊ずつ本を購入し、１か月ごとに回覧していく取組を始めています。また、読み聞かせボランティアによる詩の朗読や絵本の読み聞かせなどを実施するとともに、指導員自らが読み聞かせの学習を行い、子どもたちに読み聞かせをしている学童保育所もあり、絵本を通して楽しくお話の世界に触れ、本に親しむ機会を作っています。

②地域における読書活動の課題

図書館では、全蔵書のうち、児童書の占める割合は約３３％あり、他市町図書館と比べて劣るものではありませんが、蔵書冊数が他館と比べて少ない状況です。

古い本や傷んだ本も多く、本の入れ替わりが少ないため、新しい本を揃えて、より多くの絵本、児童書を整備する必要があります。乳幼児や小学生に比べて、中学生の利用が少ないため、中学生の利用促進を図るとともに、乳幼児、小学生、中学生とも、その登録者数、貸出者数、貸出冊数は、他市町の図書館と比

べて少ないため、今後は対象とするすべての年齢層において利用の拡大を図る必要があります。

「えほんのじかん」や「おはなし会」への参加者も、各回平均してそれぞれ１０人程度とまだまだ少ない状況にあります。回数の増加や効果的に広報を行うことにより、参加者の拡大を図る必要があります。また、あわせて、読み聞かせのほかにも、子どもたちを対象とした様々な行事やイベントを実施して読書活動へのきっかけをつくることが大切です。

放課後子ども教室の読み聞かせに参加する児童は年々多くなっており、本に触れ本を楽しむ子どもたちが増えてきています。反面、話者一人がお話をする児童数が３０人を超えることもあり、読み聞かせに適切な人数を超えてしまうために、落ち着いて話を聞き、お話の世界を楽しむ雰囲気ができにくいことがあります。適切な規模で、子どもたちがお話の世界に集中できる環境を整備する必要があります。

学童保育所に置いている本は、古い本や保護者からいただいた本が多く、子どもたちにとって既に読み終えた本となっている状況がみられます。市立図書館の団体貸出を利用したり、ボランティアや指導員による読み聞かせを実施したりしている学童保育所もまだ半数程度であり、回数にもばらつきがあるため、今後は状況をみながら、より多くの学童保育所で子どもたちが本に触れる機会や本に親しむ環境を作っていく必要があります。

３　計画の基本的な考え方

（１）基本理念

この計画は、家庭や地域、学校や図書館など、さまざまなところで、すべての子どもたちがその発達段階に応じて本を読む喜びを味わい、自主的な読書活動を通じて感性豊かに育つ読書環境をつくることをめざします。

『すべての子どもが本を読む喜びを味わい、感性豊かに育つ読書環境づくり』

（２）基本方針

①子どもが読書に親しむための機会の提供

子どもが自主的に読書を行うようになるためには、乳幼児期から読書に親しむような環境作りに配慮することが必要です。家庭、学校、地域等において、子どもが読書を楽しいと感じ、読書活動の意欲を高め、進んで読書を行う態度を養い、読書が日常的な習慣として行われるように、子どもの発達段階や個性に応じて、本に親しみ、読書の幅を広げ、読書体験を深めるような機会を提供し、子どもに読書の楽しさを伝える取組を進めます。

②子どもが本と出会うための読書環境の整備・充実

子どもが本に親しみ、読書を通じて豊かな感性や考える力を育むためには、より多くの本と出合う機会が大切になります。子どもが読書活動に興味・関心を持つような本、読書の喜びと魅力を発見できるような本を身近に整えることが重要です。子どもと本との出会いの場を提供し、自分の読みたい本を自由に選び、いつでも読書を楽しめるような環境作りに努めます。

③子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、広く理解と関心を深める必要があります。子どもは、大人から読み聞かせをしてもらったり、読書をする大人の姿を見たりすることで読書意欲を高めていきます。子どもの読書活動に関わる家庭、学校、地域が相互に連携・協力するとともに、子どもにとって身近な大人が読書活動に理解と関心を持つよう、さまざまな機会を通じて子ども読書活動の意義・重要性を広く伝え、普及・啓発に努めます。

（３）計画の位置づけ

この計画は、「子ども読書活動の推進に関する法律」の規定に基づいて策定された国の基本的な計画や県の推進計画を基本とし、第４次高砂市総合計画、高砂市教育振興基本計画を踏まえた計画として策定します。

（４）計画の対象

この計画の対象は、乳幼児から中学生までを中心に、おおむね１８歳以下の子どもとします。

（５）計画の期間

この計画の期間は、平成２８年度から平成３２年度までの５年間とします。

（６）計画の検証

この計画を効果的に推進するために、関係各課の課長級からなる「高砂市子ども読書活動推進連絡会」（庁内委員会）を設置し、計画の進捗状況について管理し、検証していきます。

４　読書活動推進のための具体的な取組

（１）計画の体系

基本理念

『すべての子どもが本を読む喜びを味わい、感性豊かに育つ読書環境づくり』

⇩

基本方針

①子どもが読書に親しむための機会の提供
②子どもが本と出会うための読書環境の整備・充実
③子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

⇩

具体的な取組

①家庭・学校・地域等における子ども読書活動の推進

○家庭における子ども読書活動の推進
- ・家庭で読書に親しむ機会の充実
- ・読書活動に対する保護者の理解の促進

○園・学校における子ども読書活動の推進
- ・園・学校で読書に親しむ機会の充実
- ・子どもの発達段階に応じた読書指導

○地域における子ども読書活動の推進
- ・図書館における読書活動の充実
- ・地域における読書活動の充実

②施設等の環境整備、関係機関の連携・協力

○図書館の整備、充実
- ・図書館の図書資料の充実
- ・図書館の児童サービス機能の充実

○学校図書館等の整備、充実
- ・保育園・認定こども園、幼稚園等の読書環境の充実
- ・学校図書館の図書資料の充実
- ・学校図書館の機能の充実

○関係機関の連携・協力
- ・地域、家庭、園・学校、図書館等の連携・協力

③子ども読書活動の普及・啓発、人材育成

○子ども読書活動に関する普及・啓発と理解の促進
- ・保護者への啓発
- ・各種情報の発信
- ・地域社会への理解促進

○子ども読書活動の推進に関わる人材の育成
- ・保育士、教職員の資質向上
- ・公共図書館司書、職員の資質向上
- ・ボランティアの育成

（２）家庭・学校・地域等における子ども読書活動の推進

①家庭における子ども読書活動の推進

・ブックスタートを、生涯にわたる読書活動の出発点として、保健センター、子育て支援センター、図書館ボランティアと協力して、引き続き実施していきます。実施にあたっては、「乳幼児のためのブックリスト」による絵本の紹介やボランティアによる読み聞かせ活動の充実を図るとともに、絵本を介して子どもたちが健やかに育つよう、親子のふれあいの大切さを伝えながら受診者に絵本を贈る活動の開始など、ブックスタート事業の拡充を図り、乳児期から家庭で絵本に親しむ機会を広げていきます。

・子育て支援センターで現在実施している事業（おはなしルーム）に加え、つどいの広場、体験保育“らんらん”、すこやかグループ、など他の子育て支援事業においても「絵本、お話事業の開催」に取り組んでいきます。

・乳幼児期において絵本の楽しさと出会う上で家庭での読み聞かせを行うことが重要であることから、園・小学校において、保護者に対し読み聞かせの大切さや意義を広く普及させるとともに、未就園児を対象とした子育て支援活動の中でも、読み聞かせの大切さを啓発していきます。

②園・学校における子ども読書活動の推進

○保育園・認定こども園における取組

・乳幼児期に読書の楽しさと出会うため、乳幼児が絵本や物語などを親しむ活動を積極的に行うよう、保育士・保育教諭の理解の促進を図ります。

・図書館司書や図書館ボランティアによるお話会や読み聞かせを実施します。

・おすすめ絵本リストの情報提供や絵本・児童書の紹介、子供向け行事の案内など、子どもの読書活動推進のための情報を積極的に提供していきます。

・読書への興味関心を高めるために映画会、人形劇などの行事を開催し、行事内容に関連した絵本を紹介します。七夕、クリスマスやひなまつり等さまざまな季節の行事において関連する絵本コーナーを展示し、子どもが本に親しむ機会を提供していきます。

・トライやるウィークなどの機会をとらえ、中学生が乳幼児に読み聞かせを行うなど、絵本に触れる機会が多様になるように工夫します。

・読書（絵本）に関する研修会や講演会を開催したり、おはなしボランティアによる読み聞かせ会へ参加したり、乳幼児と小中高校生との交流の場をもったり、絵本の読み聞かせの楽しさを共有できる機会を増やしていきます。

○幼稚園における取組

・幼稚園教育要領　言葉の領域　ねらい（３）日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。とあるように就学前の園児にとって豊かな心を育む本と出合うことは、生涯において読書を楽しむ上で非常に重要です。全幼稚園教諭が共通の意識をもって保育に携われるようにします。

・幼稚園の図書の貸し出しを促進し、家庭と協力して本好きの子どもの育成を図ります。
・絵本やおはなしに関する研修会を開催したり、講演会に参加したりすることで、幼稚園教諭の絵本読み聞かせに対する技術の向上を図り、園児と絵本読み聞かせの楽しさを共有できるようにします。
・平成２４年度作成した「おはなしリスト」は幼稚園児に適した本を年齢別、学期別に分類・編集した物ですが、幼児期の道徳性の芽生えを育む為の参考資料として、さらに加筆しながら幼稚園教育現場で活用していきます。

〇小学校における取組

各小学校では、各教科・特別活動・総合的な学習の時間等様々な機会を捉え、学校図書館などの活用を図り、読書に親しむ態度を育成するとともに読書習慣を身につけさせ、子どもの主体的・意欲的な読書活動の充実を図ることが大切と考えています。読書指導や、修学旅行等の体験活動での事前・事後学習の調べ学習に学校図書館の活用を図り、図書を計画的に授業展開に活用し、効果的な学習に役立てていきます。

〇中学校における取組

各中学校では、各教科・特別活動・総合的な学習の時間・朝の読書タイム等を十分に確保し、学校図書館などの活用を図っていきます。読書に親しむ態度を育成するとともに、読書習慣を身につけさせ、生徒の主体的・意欲的な読書活動の充実を図ることが大切と考えています。読書指導や、修学旅行等の体験活動での事前・事後学習の調べ学習に学校図書館の活用を図るとともに、図書を計画的に授業展開に活用し効果的な学習に役立てていきます。読み聞かせを聞く立場から、聞かせる立場になるトライやる・ウィーク等での経験を大切にし、読み聞かせの楽しさを広めていきます。

〇連携を意識した取組

小学校では、幼稚園や保育園を計画的に訪問して、読み聞かせを実施している学校もあります。中学校でも、朝の読書タイムやトライやる・ウィークを利用して、幼稚園児や保育園児や小学生に、読み聞かせを実施している学校もあります。

また、高等学校の放送部に読み聞かせのＣＤを録音してもらい、放送で流す取組をしている学校もあります。

さらに、朝の読書に力を入れている高等学校もあるため、保育園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校で、読書活動を核にした連携も期待できます。

③地域における子ども読書活動の推進

〇図書館における取組

・来館する幼児とその保護者には、読み聞かせをはじめとする読書機会を提供し、本を読むことの楽しさや魅力を伝えるとともに、読書を通した保護者と子どものふれあいの大切さを啓発します。現在、月２回行っている「え

ほんのじかん」や「おはなし会」の回数を増やし、新図書館に設置する「おはなしの部屋」で、子どもの発達段階に応じて、読み聞かせやストーリーテリングを毎週１回実施します。おはなしの世界の入り込める環境や雰囲気を構築し、幼い頃から耳や目で本やおはなしの楽しさを味わうことができるよう、読み聞かせ活動の拡充を図り参加者の拡大を目指します。

・現在、図書館で発行している「じどうしつだより」や「おすすめ本リスト」の内容の充実を図るとともに、「おすすめ本リスト」についても、公民館や子育て支援センターなどに配布し、広く情報提供を行います。また、図書館のホームページに子ども用のページを作成し、絵本や児童書の紹介や子供向け行事の案内など、子どもの読書活動推進のための情報を積極的に提供していきます。

・子どもが読書の楽しさを味わうきっかけづくりや読書の習慣化を図るため、読書相談や読書案内の充実を図るとともに、子どもたちのさまざまな相談や調べものに対して的確に対応し、情報提供を行う体制を整備することにより、子どもたちが主体的に読書や調べ学習に取り組めるよう支援していきます。

・読書への興味・関心を高めるために映画会、人形劇などの行事を開催し、行事の内容に関連した本をあわせて紹介したり、ひなまつり、七夕、クリスマス等さまざまな季節の行事にちなんだ展示を行い、それに関連する本のコーナー展示をしたりすることで、子どもが本に親しむ機会を提供していきます。また、親子で気軽に参加して楽しめる各種行事を行うことにより、子どもだけでなく大人にも読書活動の重要性について理解の促進を図ります。

・子どもの図書館利用を促進するためには、子どもの図書館に対する興味・関心を高める必要があります。小中学生を対象とした「１日図書館員」などの職場体験や図書館見学の受け入れを行い、子どもたちが実際に図書館業務を体験することによって、図書館に対する理解や関心を深めるとともに本に対する親しみを持つことができるよう取組を進めます。

・中学生、高校生の年齢層にあたる青少年を対象としたヤングアダルト向けのブックリストを作成し、中高生へのおすすめ本を紹介したり、中高生が興味・関心を持つようなテーマの本の展示を行ったり、中高生が参加、発表するジュニア版ビブリオバトルなどの行事を開催したりすることにより、中学生、高校生に図書館を身近な存在として感じてもらうとともに本の魅力や読書の楽しさを知ってもらう取組を進めます。

〇地域における取組

・現在、放課後子ども教室において、市内４小学校で１～２年生を対象に「読み聞かせ」活動を実施していますが、放課後子ども教室の他の活動との調整や、各学校の実情等の条件を考えあわせて、「読み聞かせ」活動の拡大と充実を図っていきます。

・学童保育所では、市立図書館の団体貸出の利用促進を図るとともに、すべての学童保育所で年１０冊ずつの本を購入し回覧していく取組を継続し、子どもたちが毎月新しい本に触れることにより、読書活動への意欲を高めることができるよう、読書環境の整備を図っていきます。また、ボランティアによる読み聞かせを実施する学童保育所を増やすとともに、学童保育所の指導員による読み聞かせ学習会の充実を図り、指導員が子どもたちに読み聞かせをする機会を増やすことにより、子どもたちが本の世界に親しみがもてるよう取組を進めていきます。

（３）施設等の環境整備、関係機関の連携・協力

①図書館の整備、充実

○図書館の図書資料の充実

・図書館が子どもにとって本との出会いや読書の楽しみを知る場となるように、子どもにとって魅力ある蔵書の充実を図り、読書意欲を高められるような資料収集に努めます。

・絵本や児童書については、年齢や発達段階に合った本を幅広く選定することにより、子どもたちの読書への興味関心を高めるようにするとともに、新刊本の購入、傷んだ本の買い替え、貸出が多い本の複本整備など、絵本、児童書の蔵書数の拡大を図り資料の充実に努めます。

・中学生、高校生に読書の楽しみの機会を提供し、読書への関心を深めるために、中高生の興味・関心が高い分野にかかわる図書の収集に努め、中高生に本との出会いの場を提供し、図書館利用の促進、読書活動の推進を図ります。

・点字付き絵本等の資料の収集など、障がいのある子どもの読書活動を支援していきます。また、日本語以外の言語を母国語とする子どもの読書環境を支えるために、外国語の絵本等の資料の収集に努めます。

・地域の伝統や文化を尊重し、郷土に誇りと愛着を持つことができる子どもの育成を支援するため、郷土の歴史や文化に関する資料の収集と提供に努めます。

○図書館の児童サービス機能の充実

・図書館が地域における子ども読書活動の最も身近な施設であることを認識し、子どもが親しみを持ち、楽しみながら読書のできる児童スペース作りをめざし、利用の拡大を図ります。

・子どもたちが読みたい本を自由に選び、読書の楽しさや学ぶ喜びを得ることができるよう児童スペースの環境を整備していきます。乳幼児が保護者と一緒に親子で絵本を読んだり、小学生が読書を楽しんだり調べものをしたりするスペースを設置し、年齢や発達段階に応じて本に親しむことができるようにします。

・必要な本や資料をすぐに探し出せるように、児童スペースに子ども用蔵書検索端末を設置し、本の検索機能の充実を図ります。また、子ども用のホ

ームページでも本の検索や予約ができるようにします。
・図書館から離れがちな中学生、高校生に対して、中高生向けの図書の展示や催し、読書案内などを工夫し、中高生を主な対象としたヤングアダルトコーナーの充実を図り、図書館に対して興味・関心を持ってもらう取組を進め、利用の拡大を図ります。

②学校図書館等の整備、充実

〇保育園・認定こども園、幼稚園等の読書環境の充実

・子育て支援センターでは、年齢に応じた乳幼児向け図書等の充実を図っていきます。
・保育園・認定こども園では、絵本・図鑑など本の充実を図ります。
・幼稚園では、図書室だけでなく教室やホールに本を置き、子どもたちが本をいつでも手に取ってみることができる環境を作っていきます。

〇学校図書館の図書資料の充実

・子どもの読書活動をより一層推進していくため、子どもの多様な興味・関心にこたえられる魅力的な図書の充実を図り、望ましい学習環境の整備に努めます。
・公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として設定されている「学校図書館図書標準」に基づく蔵書冊数の達成に努めます。
・各学校の図書の整備状況を踏まえた図書購入計画をたて、効率的に蔵書数を増やし、計画的な「学校図書充足率」の向上を図ります。

〇学校図書館の機能の充実

・学校図書管理システムを導入し、検索システムや蔵書情報のデータベース化を図り、子どもの学習活動・読書活動推進に努めます。
・各学校間における蔵書等の共同利用化や必要な図書の学校を越えた相互利用の促進・普及等を図ります。

③関係機関の連携・協力

〇地域、家庭、園・学校、図書館等の連携・協力

・子育て支援センターでは、おはなしルームにおいて、図書館ボランティアや絵本講師による絵本やお話しを活用した支援活動を行います。
・保育園・認定こども園では、図書館の見学を行い、子どもたちが実際に図書を借りる経験や体験をすることにより図書館に対する興味や関心を深め、本に対する親しみをもたせるようにします。
・幼稚園や小中学校では、読み聞かせのボランティアのグループやストーリーテリングのグループを活用し、本の楽しさを児童生徒に広めながら、一斉読書や朝の読書タイムを活用し、豊かな心を育み、知識や考え方を広げていきます。また、家庭とも連携しながら、家読（うちどく）の推進を図り、自主的な読書習慣を育成していきます。

・図書館では、子どもの読書活動を協働して推進するため、公共図書館司書と学校図書館司書教諭等による連絡会を開催し、情報や意見の交換、選書や蔵書管理などに関する助言、各種連携事業の実施などについて協議し、公共図書館と園・学校等との連携に努めます。

　また、連携協力体制を組織して、公共図書館司書や図書館ボランティアが保育園・認定こども園、幼稚園、小学校、中学校等へ出向いて、おはなし会や読み聞かせ、ブックトークなどを実施したり、研修会に講師を派遣したりするなどの支援活動を行うとともに、公共図書館で開催する読書関連事業への園・学校の参加を呼びかけたり、図書館見学や職場体験学習を実施したりするなど、公共図書館と園・学校が連携、協力して読書活動推進事業の充実を図ります。

各園・学校で活動している読み聞かせボランティアの活動状況を取りまとめ、ボランティアの情報提供や情報交換ができるようにします。

図書館が所蔵する資料の効率的な利用を図るために、子育て支援センター、保育園・認定こども園、幼稚園、学童保育所、小学校、中学校等への団体貸出の促進を図り、幼児・児童・生徒の読書活動や学習の支援に努めます。

家庭等で不要になった絵本や児童書の寄贈を図書館で受け付け、必要に応じて園・学校や子ども読書活動に関わる団体に提供する取組を進めます。

・放課後子ども教室では、充実した「読み聞かせ」活動を計画し実施していくために、各小学校との連携を密にし、活動場所の確保、参加者の募集、児童や保護者への連絡、下校の安全を図っていきます。また、市立図書館とは、語り手である図書館の登録ボランティアの派遣、「読み聞かせ」の題材となる絵本、図書の紹介、情報交換、そして効果的な「おはなし会」の運営の仕方などの助言を得ていきます。

（４）子ども読書活動の普及・啓発、人材育成

①子ども読書活動に関する普及・啓発と理解の促進

〇保護者への啓発

・子どもの読書活動の基礎を築くためには、乳幼児期から絵本に親しみ、読み聞かせを行うことが重要であることをブックスタート事業の中で広く周知し、保護者の意識・関心を高め、家庭での子ども読書活動の促進を図ります。

・保育園・認定こども園では、保護者向け図書の充実を図ります。また、保護者にも読書の楽しさ、子どもへの読み聞かせの大切さを伝えていく機会を提供します。

・幼稚園や小中学校では、家庭とも連携しながら、家読（うちどく）の推進を図り、自主的な読書習慣を育成していきます。

〇各種情報の発信

・保育園・認定こども園では、年齢に応じた乳幼児向けの絵本の案内や紹介

を行います。

・市広報やホームページを活用し、子どもの読書活動の意義や必要性をＰＲすることにより、子どもの読書活動に対する市民の理解や意識の高揚を図るとともに、各種の情報がよりよく市民に浸透するよう努めます。

・図書館では、子どもたちの読書記録を綴る「子ども読書通帳」の発行や読書相談・読書案内を通して、子どもたちが主体的に読書や学習に取り組めるように支援します。

〇地域社会への理解促進

・子ども読書活動の意義について理解を図り、読書活動の重要性について認識を深めるため、図書館において、子ども読書活動をテーマにした講演会や講座などを実施します。

・「子ども読書の日」及び「こどもの読書週間」にちなんで図書館イベントを開催し、子どもが自発的に本に親しむことができるよう、子どもや保護者をはじめ広く市民に読書活動の普及啓発を推進します。

②子ども読書活動の推進に関わる人材の育成

〇保育士、教職員の資質向上

・子どもたちが読書に興味を持ち、本に親しみを持てるよう、園・学校での読書環境の整備を図ることの意義を理解し、積極的な読書指導に取り組めるよう、学校司書の配置を目指すとともに、各種研修会の参加や実践的な研修会の実施など知識・技能の向上に努め、保育士や教職員の資質向上を図ります。

〇公共図書館司書、職員の資質向上

・子どもと本をつなぐ専門職として、司書等の資格を有する職員の配置を進めます。

・絵本や児童書に関する知識、子どもの発達段階に応じた本への興味や特性、子どもとのコミュニケーション能力など、子ども読書活動に関わる専門的な知識や技能を向上させる内部研修を実施し、職員の資質向上を図ります。

・児童サービスに関する専門的な知識、技術を高めるための外部研修に積極的に参加するよう努め、児童サービスの向上と一層の充実を図ります。

〇ボランティアの育成

・子どもの読書活動を支援するボランティアを育成するため、読み聞かせボランティア養成講座を開催し、子ども読書活動推進の担い手を増やすよう努めます。

・ボランティアグループが実施するスキルアップのための勉強会を支援し、ボランティアの実践力の向上を図ります。

・図書館で開催する「えほんのじかん」や「おはなし会」のほか、子育て支援センター、学童保育所、保育園・認定こども園、幼稚園、小学校、中学校など、様々な実践活動の場を提供し、ボランティア活動の普及に努めます。

（５）各施策、事業一覧と目標

①子ども読書活動推進のための施策、事業一覧

大項目	中項目	小項目	施策・事業	主管課
家庭・学校・地域等における子ども読書活動の推進	家庭における子ども読書活動の推進	家庭で読書に親しむ機会の充実	ブックスタート事業の拡充（絵本の配布、ブックリストの充実）	図書館、健康増進課 子育て支援センター
			おはなしルームの開催 絵本・おはなし事業の拡充	子育て支援センター
			家庭への絵本の貸し出し	子育て支援室 （保育園・認定こども園）
		読書活動に対する保護者の理解の促進	絵本の紹介､子育てや読み聞かせ推進に関する情報提供	子育て支援センター
			未就園児の子育て支援活動における保護者への啓発	子育て支援室 （保育園・認定こども園）
			図書の紹介など保護者への働きかけ	学校教育課（幼）
	園・学校における子ども読書活動の推進	園・学校で読書に親しむ機会の充実	子どもの身近な所へ絵本や図鑑を設置	子育て支援室 （保育園・認定こども園）
			絵本の読み聞かせ､わらべうたや手遊びなどの活動の充実	
			絵本に触れ楽しむ多様な機会の創出	
			図書の紹介、読み聞かせ活動の充実	学校教育課（幼）
			おはなしリストを活用し､絵本や物語に親しむ時間の拡充	
			ボランティアや保護者による読み聞かせやストーリーテリングの実施	学校教育課（小）
		子どもの発達段階に応じた読書指導	朝の読書の時間の確保と取組の充実	学校教育課（小中）
			学校図書館の活用（読書、調べ学習）	
			発達段階に応じた図書の紹介	
			図書の相互利用と効果的な活用	
	地域における子ども読書活動の推進	図書館における読書活動の充実	読み聞かせ活動の拡充	図書館
			子ども向け図書館だよりやブックリストの充実	
			子ども向けホームページの作成と情報提供	
			読書相談や調べ学習の支援	
			本に親しむための行事の充実	
			図書館職場体験や図書館見学の実施	
			中高生を対象としたブックリストの作成やコーナー展示、行事の開催	
		地域における読書活動の充実	放課後子ども教室における読み聞かせ活動の充実	生涯学習課
			ボランティアや指導員による読み聞かせ活動の充実	子育て支援センター（学童保育所）

大項目	中項目	小項目	施策・事業	主管課
施設等の環境整備・関係機関の連携・協力	図書館の整備充実	図書館の図書資料の充実	子どもの読書意欲を高める図書資料の収集	図書館
			絵本、児童書の蔵書数の拡大	
			中高生向けの図書資料の充実	
			点字付絵本や外国語の絵本の収集	
		図書館の児童サービス機能の充実	発達段階に応じた多様な児童スペースの整備	図書館
			子ども用の蔵書検索機能の充実	
			中高生向けコーナーの充実	
	学校図書館等の整備充実	保育園・認定こども園、幼稚園等の読書環境の充実	年齢に応じた乳幼児向け図書の充実	子育て支援センター
			図書館団体貸出の利用促進､新しい図書の購入と学童保育所間での回覧	子育て支援センター（学童保育所）
			絵本、図鑑などの充実	子育て支援室（保育園・認定こども園）
			季節の行事に関連した絵本の展示	
			子どもがいつでも本を手に取ることができる環境づくり	学校教育課（幼）
		学校図書館の図書資料の充実	魅力的な図書の充実､望ましい学習環境の整備	学務課 学校教育課（小中）
			「学校図書館図書標準」に基づく蔵書冊数の達成	学務課
			計画的な「学校図書充足率」の向上	
		学校図書館の機能の充実	学校図書館管理システムや図書検索システムの導入､蔵書情報のデータベース化	学務課
			各学校間における図書の相互利用の促進	
	関係機関の連携・協力	地域、家庭、園・学校、図書館等の連携・協力	図書館ボランティアや絵本講師などとの連携事業の充実	子育て支援センター 図書館
			家読（うちどく）の推進	学校教育課（小中）
			図書館司書と司書教諭及び学校司書との連携	図書館 学校教育課（小中）
			図書館と園･学校との連携事業の充実	図書館、学校教育課 子育て支援室
			図書館の団体貸出制度の充実	図書館、学校教育課 子育て支援室､関係各課
			絵本・児童書のリサイクル	図書館 関係各課
			園・学校、図書館、読み聞かせボランティアとの連携	関係各課

大項目	中項目	小項目	施策・事業	主管課
子ども読書活動の普及・啓発と人材育成	子ども読書活動に関する普及・啓発と理解の促進	保護者への啓発	保護者向け図書の充実	子育て支援センター
			保護者に読書の楽しさ、読み聞かせの大切さを伝える機会の提供	
			家庭での自主的な読書習慣の育成	学校教育課
			ブックスタート事業等による家庭での子ども読書活動の促進	図書館
		各種情報の発信	年齢に応じた絵本の案内や紹介	子育て支援センター
			ホームページ等による子ども読書活動の意義や必要性の発信	図書館
			「子ども読書手帳」の発行や読書相談・読書案内の充実	
		地域社会への理解促進	子ども読書活動に関わる講演会等の開催	図書館
			「子ども読書の日」「こども読書週間」を中心とした行事の開催	
	子ども読書活動の推進に関わる人材の育成	保育士、教職員の資質向上	子どもの読書指導に関する研修の実施、研修会への参加	子育て支援室 (保育園・認定こども園) 学校教育課
		図書館司書、職員の資質向上	児童サービスに関する研修の実施、研修会への参加	図書館
		ボランティアの育成	読み聞かせボランティア養成講座の開催	図書館
			ボランティアの実践活動の支援	図書館 関係各課

②各施策、事業の目標

○計画全体における目標

『不読率の改善』

・本市の小中学生の不読率（１か月間に１冊も本を読まなかった「不読者」の割合）は、小学生（４～６年生）１．４％、中学生１１．４％と、全国平均の数値（平成２６年度第６０回学校読書調査）を下回っている状況ですが、本計画を推進することにより、小中高校生の不読率のさらなる改善をめざします。

	全国平均 （平成２６年度）	実績値 （平成２６年度）	目標値 （平成３２年度）
小学生不読率	３．８％	１．４％	１％以下
中学生不読率	１５．０％	１１．４％	５％以下
高校生不読率	４８．７％	－％	３０％以下

○各施策、事業ごとの目標

・子育て支援室、子育て支援センター

施策・事業	指　標	実績値（平成２６年度）	目標値（平成３２年度）
おはなしルーム ・読み聞かせ ・おはなし会	実施回数	年２４回 （月２回）	年３６回
つどいの広場 ・読み聞かせ ・おはなし会	実施回数	年１２０回 （月１０回）	年２１６回
すこやかグループ ・読み聞かせ ・おはなし会	実施回数	年４８回 （月４回）	年４８回
体験保育“らんらん” ・読み聞かせ ・おはなし会	実施回数	年３０回 （１園１０回）	年４０回
図書資料の充実 （絵本、保護者向け）	蔵書冊数	６００冊	８００冊

・学校教育課、学務課

施策・事業	指　標	実績値（平成２６年度）	目標値（平成３２年度）
学校図書の充実	学校図書充足率	小学校８２．７％ 中学校８６．３％	小学校 100％以上 中学校 100％以上

・図書館

施策・事業	指　標	実績値（平成２６年度）	目標値（平成３２年度）
「えほんのじかん」「おはなし会」の開催	実施回数	月２回	月４回
	参加者数	１８７人	５００人
図書資料（絵本・児童書・青少年向け図書）の充実	蔵書冊数	３７，０８５冊	５５,０００冊
	登録者数	小学生以下 １,５５１人 中学生　－　人	小学生以下 ４,０００人 中学生　７５０人
	貸出者数	小学生以下 ８，１３３人 中学生　－　人	小学生以下 ２０,０００人 中学生　２,０００人
	貸出冊数	小学生以下 ２４，６７７冊 中学生　－　冊	小学生以下 １２０,０００冊 中学生　１０,０００冊
ブックスタート事業の拡充	絵本配布冊数	－	１人２冊の絵本配布
乳幼児・児童・青少年向け行事・講座の開催	実施回数	－	年５回
読み聞かせボランティア養成講座の開催	実施回数	－	年３回
団体貸出の拡充	団体数	１２団体	３０団体
	貸出冊数	１,６４８冊	５,０００冊

資 料 編　目 次

■ 子ども読書活動に関するアンケート実施状況 ■

１　子ども読書活動に関するアンケートの実施について・・・・・・・・・・・・・・・１

２　子どもの読書活動の実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

■ 子ども読書活動に関するアンケート調査結果 ■

１　就学前の子どもをもつ保護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

２　小学校１・２年生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

３　小学校３・４年生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

４　小学校５・６年生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

５　中学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

■ 子どもの読書活動の推進に関する法律 ■

1　子ども読書活動に関するアンケートの実施について

（1）目的

高砂市における子どもの読書活動の推進を図るため、「高砂市子ども読書活動推進計画」の策定にあたって、子どもの読書活動の実態及び保護者の読書活動への意識を把握し、計画の策定に反映させるため、子ども読書活動に関するアンケートを実施する。

（2）調査対象及び調査方法

①市立小学校・中学校の児童、生徒

・各学年１クラスを対象（各校で実施するクラスを選定）に実施する。

・小学校１・２年生については、必要に応じて、学級担任の先生が児童に一問ずつ説明をしながら、児童と一緒に実施する。

・小学校３年生～６年生及び中学生については、アンケート用紙を児童・生徒に配布し、児童・生徒自身で記入する。また、必要に応じて、児童・生徒に説明を行う。

②就学前の子どもをもつ保護者

・市立保育園・幼稚園に通園する園児（５歳児）の保護者に、各園を通じてアンケート用紙を配布し、保護者記入の上、各園に提出する。

・子育て支援センターが開催する子育てグループ等の保護者に、アンケート用紙を配布し、保護者記入の上、子育て支援センターに提出する。

（3）アンケートの種類

アンケートは、就学前の子どもの保護者用、小学校低学年用（１・２年生)、小学校中学年用（３・４年生)、小学校高学年用（５・６年生)、中学生用の５種類とする。

なお、このアンケートにおいて、「本」とは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌を除いたものとする。

（4）アンケート調査の内容

①読書に対する意識（読書が好きか嫌いか）

②読書量（１か月に読む本の冊数等について）

③本を読む理由、読まない理由

④図書館の利用状況（学校図書館、公共図書館等）

⑤家庭での読書環境

⑥就学前の子どもをもつ保護者の意識と子どもの状況（保護者用アンケート）

（5）実施期間

平成２６年１０月６日～１０月３１日

（6）アンケート調査数

対　　象		調査数
市立小学校 （１０校）	１年生	３０９
	２年生	３１１
	３年生	３２２
	４年生	３０４
	５年生	３６０
	６年生	３５４
市立中学校 （６校）	１年生	２０２
	２年生	２１５
	３年生	１９９
市立保育園・幼稚園 子育て支援センター	保護者	４７１
合計		3,０４７

２　子どもの読書活動の実態

（1）読書に対する意識（読書が好きか嫌いか）

①「読書が好きか」との問いに対する回答の学年別の割合

	「好き」または 「どちらかというと好き」	「嫌い」または 「どちらかというと嫌い」
小学校低学年（１・２年）	７８.１％	１２.６％
小学校中学年（３・４年）	９０.９％	９.１％
小学校高学年（５・６年）	８５.７％	１４.３％
中学生（１～３年）	７４.４％	２５.６％

子どもの読書に対する意識（読書が好きか嫌いか）について、調査を行ったところ、小学校低学年では、「本を読むことが好きか」という問いに対して、「はい」と回答した児童が７８.１％、「いいえ」と回答した児童が１２.６％であった。小学校中学年以上では、「好き」と「どちらかというと好き」を合わせて９０.９％、小学校高学年では８５.７％、中学生では７４.４％であった。反対に、「嫌い」と「どちらかというと嫌い」の合計では、小学校中学年が９.１％、小学校高学年が１４.３％、中学生が２５.６％であった。

各学年を通じて７割から９割の児童・生徒が「読書が好きだ」と思っていることがわかるが、各学年別に比較してみると、自分ひとりで本を読み、読書を楽しむことができるようになる小学校中学年をピークに、学年が上がるにつれて「好き」の数値が減少し、「嫌い」の数値が増加していく傾向がみられる。

（２）読書量（１か月に読む本の冊数、１日の読書時間）

①１か月に読む本の冊数の学年別の割合（小学校中学年以上）

	１０冊以上	５～９冊	１～４冊	０冊
小学校中学年（３・４年）	４６.６％	３１.４％	２２.１％	０％
小学校高学年（５・６年）	１８.４％	３４.１％	４５.５％	２.０％
中学生（１～３年）	６.２％	１２.６％	６９.８％	１１.４％

子どもの読書量（１か月に読む本の冊数）について、小学校中学年以上の児童・生徒を対象に調査行ったところ、「月に１０冊以上読む」と回答した児童・生徒が、小学校中学年では４６.６％、小学校高学年では１８.４％、中学生では６.２％であった。「月に５～９冊」は、小学校中学年では３１.４％、小学校高学年では３４.１％、中学生では１２.６％、「月に１冊～４冊」は、小学校中学年では２２.１％、小学校高学年では４５.５％、中学生では６９.８％となっており、学年があがるにつれて本を読む冊数が減少していく傾向にある。

また、「０冊」と回答した児童・生徒の割合（不読率）は、小学校中学年において、今回の調査では該当がなく、調査対象となった児童すべてが月に１冊以上の本を読んでいた。しかし、小学校高学年では２．０％、中学生では１１.４％と学年があがるにつれて、不読率の数値が増加する傾向にある。

②１日の読書時間（小学校高学年以上、朝読や図書の時間を含まない）

	１時間以上	３０分～１時間	３０分以内	２０分以内	１０分以内	読まない
小学校高学年（５・６年）	１１.６％	２４.２％	２１.３％	１５.９％	１８.５％	８.５％
中学生（１～３年）	６.８％	１９.９％	１３.６％	１５.５％	２０.２％	２４.０％

１日の読書時間については、３０分以上の児童・生徒が小学校高学年では３５.８％、中学生では２６.７％となっているが、３０分以内の児童・生徒が小学校高学年では５５.７％、中学生では４９.３％、１日の中で本を読まない児童・生徒が小学校高学年では８.５％、中学生では２４.０％となっており、学年があがるにつれて、１日の読書時間が短くなる傾向がみられる。

（３）本を読む理由、読まない理由

①「本を読む理由」（本をよく読む児童・生徒対象）

小学校低学年、中学年

「楽しいから、おもしろいから」　小学校低学年５９.３％、中学年６３.６％

「いろいろなことがわかるから」　小学校低学年３６.９％、中学年２８.９％

小学校高学年、中学生

「本を読むことが楽しく想像の世界が広がるから」

小学校高学年４９.３％、中学生５３.０％

「いろいろな新しいこと（知識）を知ることができるから」

小学校高学年２８.８％、中学生２０.５％

「本を読む理由」については、小学校低学年から中学生まで、各学年を通じて同じ傾向がみられた。

②「本を読まない理由」（本を読まない児童・生徒対象）

小学校低学年

「スポーツやゲームなどほかの遊びの方が楽しいから」　５２.７％

「読みたい本がないから」　１９.２％

小学校高学年、中学生

「スポーツをしたり、外で遊んだり、テレビを見たり、ゲームで遊んだりする方が楽しいから」

小学校高学年６２.５％、中学生４８.０％

「部活や勉強、習いごと（塾）などで読む時間がないから」

小学校高学年１２.５％、中学生１７.０％

「楽しくないから、おもしろくないから」

小学校高学年　８.３％、中学生１８.０％

「本を読まない理由」は、各学年とも「スポーツやテレビ、ゲームなどほかの遊びの方が楽しいから」というものが最も多いが、中学生になると「部活や勉強、塾などで読む時間がないから」や「楽しくないから、おもしろくないから」という理由の割合が高くなっている。

（４）図書館の利用状況（学校図書館、公共図書館等）

①「学校の図書室に行くのが好きか」との問いに対する回答の学年別の割合

	「好き」または 「どちらかというと好き」	「嫌い」または 「どちらかというと嫌い」
小学校低学年（１・２年）	８１.３％	１０.９％
小学校中学年（３・４年）	９２.８％	７.２％
小学校高学年（５・６年）	８１.４％	１８.６％
中学生（１～３年）	４５.８％	５４.２％

学校の図書室にいくのが好きか嫌いかについて、小学校低学年では、「はい」と回答した児童が８１.３％、「いいえ」と回答した児童が１０.９％であった。小学校中学年以上では、「好き」と「どちらかというと好き」を合わせて９２.８％、小学校高学年では８１.４％、中学生では４５.８％であった。反対に、「嫌い」と「どちらか

というと嫌い」の合計では、小学校中学年が７.２％、小学校高学年が１８.６％、中学生が５４.２％であった。

この調査結果は、小学校では「読書が好きか嫌いか」という調査結果と比例しており、８割から９割の児童・生徒が「学校の図書室に行くのが好きだ」と思っていることがわかるが、中学生になると「好き」の数値が大幅に減少し、「嫌い」の数値が「好き」の数値を上回る結果となった。

②学校図書館の利用状況（１週間に行く回数、小学校中学年以上）の割合

	５回以上	３～４回	１～２回	０回
小学校中学年（３・４年）	７.５％	２９.９％	６１.０％	１.６％
小学校高学年（５・６年）	３.９％	１４.２％	６７.５％	１４.４％
中学生（１～３年）	２.３％	４.６％	２１.８％	７１.３％

学校図書館の利用状況について、小学校低学年では、７０.０％の子どもが「よく行く」と回答している。

また、１週間の利用状況では、小学校中学年では「１～２回」が６１.０％と最も多く、次に「３～４回」が２９.９％、小学校高学年でも「１～２回」が６７.５％、「３～４回」が１４.２％の順となった。

中学生では、「０回」が７１.３％、次に「１～２回」が２１.８％で、約７割の生徒が１週間に１回も学校図書館を利用していない状況であり、学年があがるにつれて、学校図書館に行く回数が減少する傾向がみられる。

③学校以外の図書館（公共図書館等）の利用状況（小学校中学年以上）の割合

	よく行く	ときどき行く	あまり行かない	行かない
小学校中学年（３・４年）	２５.８％	４１.３％	１９.４％	１３.５％
小学校高学年（５・６年）	１６.１％	３６.５％	３１.３％	１６.１％
中学生（１～３年）	４.７％	２７.６％	３５.６％	３２.１％

学校以外の図書館（公共図書館等）の利用状況では、小学校低学年では、６９.０％の子どもが「学校以外の図書館で本を読んだり借りたりしたことがある」と回答している。

また、小学校中学年以上では、「よく行く」と「ときどき行く」を合わせて、小学校中学年が６７.１％、小学校高学年が５２.６％、中学生が３２.３％であり、反対に、「あまり行かない」と「行かない」を合わせると、小学校中学年が３２.９％、小学校高学年が４７.４％、中学生が６７.７％となっており、学年があがるにつれて利用状況が低くなる傾向がみられる。

（５）家庭での読書環境

家庭での読書環境として、

・「家の人はよく本を読んでいるか」（全学年）

・「家の人によく本を読んでもらうか」（小学校低学年）

・「家の人によく本を読んでもらったか」（小学校中学年以上）

ということについて尋ねたところ、「家の人はよく本を読んでいるか」という質問については、小学校低学年では４４.５％が「はい」と回答し、小学校中学年以上では、「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせて、小学校中学年が６３.６％、小学校高学年が６４.２％、中学生が４５.５％であった。

小学校低学年への「家の人によく本を読んでもらうか」という質問については、「はい」が３０.６％、「いいえ」が６０.８％であった。

「家の人によく本を読んでもらったか」という質問については、「よく読んでもらった」と「ときどき読んでもらった」を合わせて、小学校中学年が８３.５％、小学校高学年が７８.４％、中学生が７４.２％であった。

（６）子どもの読書活動に対する保護者（就学前の子どもをもつ保護者）の意識

①子どもの読書活動の意義に対する認識

子どもの読書活動の意義について、「読書は子どもの健やかな成長に重要であると考えるか」と尋ねたところ、「とても重要である」と回答した保護者が６３.１％、「ある程度重要である」と回答した保護者が３６.１％、あわせて９９.２％の保護者が子どもの読書活動が重要であると回答しており、保護者の子どもの読書活動の意義に対する意識は高いものがあると思われる。

②家庭での読書環境と子どもの状況

保護者自身の読書の状況については、「日頃からよく本を読む」と「ときどき読む」を合わせると５５.３％であり、また、「子どもといっしょに地域の図書館に行くか」という質問については、「よく行く」と「ときどき行く」を合わせて４４.２％となっている。

一方、「子どもに本を読んでほしいとせがまれたことがあるか」という質問については、「よくある」と「ときどきある」を合わせて９５.３％であり、「子どもに本の読み聞かせをしますか」という質問については、「よくする」と「ときどきする」を合わせると９０.７％となり、多くの家庭で子どもへの読み聞かせが行われていることがうかがえる。

また、「子どもが自分で本を見ることがあるか」という質問については、「よくある」と「ときどきある」を合わせて９６.６％となっており、多くの家庭で子どもが本に親しんでいる様子がうかがえる。

③子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要なこと

保護者が子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと考えているのは、「家庭での読書環境の充実」で５７.０％となっており、続いて「保育所、幼稚園学校等の図書の充実」が２４.５％、「公共図書館の充実」が１７.３％の順となっている。就学前の子どもに対して、読書活動を推進するためには、多くの保護者が家庭での読書環境を充実させることが最も重要と考えている。

子ども読書活動に関するアンケート調査票

（就学前保護者用）

※各問にひとつだけ○をつけてください。

1　読書は子どもの健やかな成長に重要であると考えますか。

ア　とても重要である
イ　ある程度重要である
ウ　あまり重要ではない
エ　重要ではない
オ　わからない

2　子どもさんに、よく本の読み聞かせをしますか。

ア　よくする　　イ　ときどきする　　ウ　ほとんどしない

3　子どもさんに、本を読んでほしいとせがまれたことがありますか。

ア　よくある　　イ　ときどきある　　ウ　ほとんどない

4　子どもさんが、自分で本を見ることがありますか。

ア　よくある　　イ　ときどきある　　ウ　ほとんどない

5　あなた（保護者自身）は、日頃からよく本を読みますか。

ア　よく読む　　イ　ときどき読む　　ウ　ほとんど読まない

6　あなた（保護者自身）は、子どもさんといっしょに地域の図書館によく行きますか。

ア　よく行く　　イ　ときどき行く　　ウ　ほとんど行かない

7　子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要であると思うものはどれですか。

ア　家庭での読書環境の定着
イ　保育所、幼稚園、学校等の図書の充実
ウ　公共図書館の充実
エ　その他（　　）

子ども読書活動に関するアンケート調査結果

〔平成26年10月実施〕

（ ※一部、無回答及び重複回答あり ）

1　就学前の子どもをもつ保護者

1　読書は子どもの健やかな成長に重要であると考えますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	計
人数	297	170	0	0	4	471
割合	63.1%	36.1%	0.0%	0.0%	0.8%	100%

2　子どもさんに、よく本の読み聞かせをしますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	121	307	44	472
割合	25.6%	65.1%	9.3%	100%

3　子どもさんに、本を読んでほしいとせがまれたことがありますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	204	245	22	471
割合	43.3%	52.0%	4.7%	100%

4　子どもさんが、自分で本を見ることがありますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	263	195	16	474
割合	55.5%	41.1%	3.4%	100%

5　あなた（保護者自身）は、日頃からよく本を読みますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	67	194	211	472
割合	14.2%	41.1%	44.7%	100%

6　あなた（保護者自身）は、子どもさんといっしょに地域の図書館によく行きますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	63	144	261	468
割合	13.4%	30.8%	55.8%	100%

7　子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要であると思うものはどれですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	274	118	83	6	481
割合	57.0%	24.5%	17.3%	1.2%	100%

（小学校１・２年生用）

※ 各問に<u>ひとつだけ○</u>をつけてください。

1　本を読むことが好きですか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

2　学校や家で本をよく読んでいますか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

3　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（２でアに○をつけた人）

ア　たのしいから、おもしろいから
イ　いろいろなことがわかるから
ウ　せんせいやいえの人にいわれるから
エ　わからない

4　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（２でイに○をつけた人）

ア　たのしくないから、おもしろくないから
イ　スポーツやゲームなど、ほかのあそびのほうがたのしいから
ウ　よみたい本がないから
エ　わからない

5　学校の図書室に行くのが好きですか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

6　学校の図書室によく行きますか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

7　学校のほかの図書館に行って、本を読んだり借りたりしたことがありますか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

8　家の人に、よく本を読んでもらいますか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

9　家の人は、よく本を読んでいますか。

ア　はい　　イ　いいえ　　ウ　わからない

２　小学校1・2年生

１　本を読むことが好きですか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	484	78	58	620
割合	78.1%	12.6%	9.3%	100%

２　学校や家で本をよく読んでいますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	418	143	59	620
割合	67.4%	23.1%	9.5%	100%

３　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（2でアに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	249	155	7	9	420
割合	59.3%	36.9%	1.7%	2.1%	100%

４　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（2でイに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	18	77	28	23	146
割合	12.3%	52.7%	19.2%	15.8%	100%

５　学校の図書室に行くのが好きですか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	512	69	49	630
割合	81.3%	10.9%	7.8%	100%

６　学校の図書室によく行きますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	433	129	57	619
割合	70.0%	20.8%	9.2%	100%

７　学校のほかの図書館に行って、本を読んだり借りたりしたことがありますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	428	164	28	620
割合	69.0%	26.5%	4.5%	100%

８　家の人に、よく本を読んでもらいますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	189	376	53	618
割合	30.6%	60.8%	8.6%	100%

９　家の人は、よく本を読んでいますか。

番号	ア	イ	ウ	計
人数	276	210	134	620
割合	44.5%	33.9%	21.6%	100%

（小学校３・４年生用）

※各問（かくとい）にひとつだけ○をつけてください。

1　読書（どくしょ）がすきですか。
　ア　すき　　イ　どちらかというと すき　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

2　１か月に何さつくらい本を読みますか。（朝どくや図書の時間をふくむ）
　ア　１０さつよりおおい　　イ　５～９さつ　　ウ　１～４さつ　　エ　０さつ

3　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（２でア、イ、ウに○をつけた人）
　ア　楽しいから、おもしろいから、
　イ　いろいろなことがわかるから
　ウ　先生や家の人に言われるから
　エ　そのほか（　　）

4　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（２でエ○をつけた人）
　ア　楽しくないから、おもしろくないから
　イ　スポーツをしたり、外で遊んだりする方が楽しいから
　ウ　テレビを見たり、ゲームで遊んだりする方が楽しいから
　エ　勉強や習（なら）いごとで読む時間がないから
　オ　読みたい本がないから
　カ　どんな本を読んでいいか、わからないから
　キ　そのほか（　　）

5　学校の図書室（としょしつ）に行くのがすきですか。
　ア　すき　　イ　どちらかというと すき　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

6　一週間に何回（なんかい）くらい学校の図書室（としょしつ）に行きますか。
　ア　５回よりおおい　　イ　３～４回　　ウ　１～２回　　エ　０回

7　学校のほかの図書館（としょかん）に行って、本を読んだり、かりたりしたことがありますか。
　ア　よく行く　　イ　ときどき行く　　ウ　あまり行かない　　エ　行かない

8　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。
　ア　よく読んでもらった　イ　ときどき読んでもらった　ウ　読んでもらったことがない
　エ　おぼえていない

9　家の人は、よく本を読んでいますか。
　ア　よく読んでいる　　イ　ときどき読んでいる　　ウ　あまり読んでいない
　エ　わからない

３　小学校3･4年生

１　読書が好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	398	171	42	15	626
割合	63.6%	27.3%	6.7%	2.4%	100%

２　1か月に何冊くらい本を読みますか。（朝読や図書の時間を含む）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	291	196	138	0	625
割合	46.6%	31.3%	22.1%	0.0%	100%

３　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（2でア、イ、ウに○をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	398	181	17	30	626
割合	63.6%	28.9%	2.7%	4.8%	100%

４　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（2でエに○をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	計
人数	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0%

５　学校の図書室に行くのが好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	386	195	28	17	626
割合	61.7%	31.1%	4.5%	2.7%	100%

６　一週間に何回くらい学校の図書室に行きますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	47	188	383	10	628
割合	7.5%	29.9%	61.0%	1.6%	100%

７　学校のほかの図書館に行って、本を読んだり、借りたりしたことがありますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	161	258	121	84	624
割合	25.8%	41.3%	19.4%	13.5%	100%

８　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	364	158	27	76	625
割合	58.2%	25.3%	4.3%	12.2%	100%

９　家の人は、よく本を読んでいますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	203	195	133	95	626
割合	32.4%	31.2%	21.2%	15.2%	100%

（小学校５・６年生用）

※各問にひとつだけ○をつけてください。

1　読書が好きですか。
　ア　好き　　イ　どちらかというと 好き　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

2　１か月に何冊くらい本を読みますか。（朝読や図書の時間をふくむ）
　ア　１０冊以上　　イ　５～９冊　　ウ　１～４冊　　エ　０冊

3　１日のうち、本を読む時間はどのくらいですか。（朝読や図書の時間をふくまない）
　ア　１時間以上　　イ　３０分～１時間　　ウ　３０分以内
　エ　２０分以内　　オ　１０分以内　　カ　読まない

4　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（２でア、イ、ウに○をつけた人）
　ア　本を読むことが楽しく、想像（そうぞう）の世界が広がるから
　イ　自分の考えが広がったり、深まったりするから
　ウ　いろいろな新しいことを知ることができるから
　エ　先生や家の人に言われるから
　オ　その他（　　）

5　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（２でエに○をつけた人）
　ア　楽しくないから、おもしろくないから
　イ　スポーツをしたり、外で遊んだりする方が楽しいから
　ウ　テレビを見たり、ゲームで遊んだりする方が楽しいから
　エ　勉強や習いごとなどで読む時間がないから
　オ　読みたい本がないから
　カ　どんな本を読んでいいか、わからないから
　キ　その他（　　）

6　学校の図書室に行くのが好きですか。
　ア　好き　　イ　どちらかというと 好き　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

7　一週間に何回くらい学校の図書室に行きますか。
　ア　５回以上　　イ　３～４回　　ウ　１～２回　　エ　０回

8　学校以外の図書館に行って、本を読んだり、かりたりしたことがありますか。
　ア　よく行く　　イ　ときどき行く　　ウ　あまり行かない　　エ　行かない

9　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。
　ア　よく読んでもらった　イ　ときどき読んでもらった　ウ　読んでもらったことがない
　エ　おぼえていない

10　家の人は、よく本を読んでいますか。
　ア　よく読んでいる　イ　ときどき読んでいる　ウ　あまり読んでいない　エ　わからない

4　小学校5・6年生

1　読書が好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	370	242	72	30	714
割合	51.8%	33.9%	10.1%	4.2%	100%

2　1か月に何冊くらい本を読みますか。（朝読や図書の時間を含む）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	131	243	324	14	712
割合	18.4%	34.1%	45.5%	2.0%	100%

3　1日のうち、本を読む時間はどのくらいですか。（朝読や図書の時間を含まない）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
人数	83	173	152	114	132	61	715
割合	11.6%	24.2%	21.3%	15.9%	18.5%	8.5%	100%

4　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（2でア、イ、ウに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	計
人数	332	54	194	47	46	673
割合	49.3%	8.0%	28.8%	7.0%	6.9%	100%

5　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（2でエに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	計
人数	2	11	4	3	1	1	2	24
割合	8.3%	45.8%	16.7%	12.5%	4.2%	4.2%	8.3%	100%

6　学校の図書室に行くのが好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	231	358	103	32	724
割合	31.9%	49.5%	14.2%	4.4%	100%

7　一週間に何回くらい学校の図書室に行きますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	28	101	482	103	714
割合	3.9%	14.2%	67.5%	14.4%	100%

8　学校以外の図書館に行って、本を読んだり借りたりしたことがありますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	115	260	223	115	713
割合	16.1%	36.5%	31.3%	16.1%	100%

9　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	365	193	22	132	712
割合	51.3%	27.1%	3.1%	18.5%	100%

10　家の人は、よく本を読んでいますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	224	234	173	82	713
割合	31.4%	32.8%	24.3%	11.5%	100%

（中学生用）

※各問にひとつだけ○をつけてください。

1　読書が好きですか。
　ア　好き　　イ　どちらかというと 好き　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

2　１か月に何冊くらい本を読みますか。（朝読や図書の時間を含む）
　ア　１０冊以上　　イ　５～９冊　　ウ　１～４冊　　エ　０冊

3　１日のうち、本を読む時間はどのくらいですか。（朝読や図書の時間を含まない）
　ア　１時間以上　　イ　３０分～１時間　　ウ　３０分以内
　エ　２０分以内　　オ　１０分以内　　カ　読まない

4　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（２でア、イ、ウに○をつけた人）
　ア　本を読むことが楽しく、想像の世界が広がるから
　イ　自分の考えが広がったり深まったりするから
　ウ　いろいろな新しい知識を得ることができるから
　エ　先生や家の人に言われるから
　オ　その他（　　）

5　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（２でエに○をつけた人）
　ア　楽しくないから、おもしろくないから
　イ　スポーツをしたり、外で遊んだりする方が楽しいから
　ウ　テレビを見たり、ゲームで遊んだりする方が楽しいから
　エ　部活や勉強、塾などで読む時間がないから
　オ　読みたい本がないから
　カ　どんな本を読んでいいか、わからないから
　キ　その他（　　）

6　学校の図書室に行くのが好きですか。
　ア　好き　　イ　どちらかというと 好き　　ウ　どちらかというと きらい　　エ　きらい

7　一週間に何回くらい学校の図書室に行きますか。
　ア　５回以上　　イ　３～４回　　ウ　１～２回　　エ　０回

8　学校以外の図書館を利用したことがありますか。
　ア　よく利用する　　イ　ときどき利用する　　ウ　あまり利用しない　　エ　利用しない

9　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。
　ア　よく読んでもらった　イ　ときどき読んでもらった　ウ　読んでもらったことがない
　エ　おぼえていない

10　家の人は、よく本を読んでいますか。
　ア　よく読んでいる　イ　ときどき読んでいる　ウ　あまり読んでいない　エ　わからない

5　中 学 生

1　読書が好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	230	230	104	55	619
割合	37.2%	37.2%	16.7%	8.9%	100%

2　1か月に何冊くらい本を読みますか。（朝読や図書の時間を含む）

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	38	77	427	70	612
割合	6.2%	12.6%	69.8%	11.4%	100%

3　1日のうち、本を読む時間はどのくらいですか。（朝読や図書の時間を含まない）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	計
人数	42	123	84	96	125	149	619
割合	6.8%	19.9%	13.6%	15.5%	20.2%	24.0%	100%

4　本をよく読む人は、なぜ本を読むのですか。（2でア、イ、ウに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	計
人数	261	52	101	36	43	493
割合	53.0%	10.5%	20.5%	7.3%	8.7%	100%

5　本を読まない人は、なぜ本を読まないのですか。（2でエに〇をつけた人）

番号	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	計
人数	18	33	15	17	10	2	5	100
割合	18.0%	33.0%	15.0%	17.0%	10.0%	2.0%	5.0%	100%

6　学校の図書室に行くのが好きですか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	56	222	209	120	607
割合	9.2%	36.6%	34.4%	19.8%	100%

7　一週間に何回くらい学校の図書室に行きますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	14	28	134	438	614
割合	2.3%	4.6%	21.8%	71.3%	100%

8　学校以外の図書館を利用したことがありますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	29	170	219	198	616
割合	4.7%	27.6%	35.6%	32.1%	100%

9　小さいころに、家の人によく本を読んでもらいましたか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	254	203	24	135	616
割合	41.2%	33.0%	3.9%	21.9%	100%

10　家の人は、よく本を読んでいますか。

番号	ア	イ	ウ	エ	計
人数	119	160	220	114	613
割合	19.4%	26.1%	35.9%	18.6%	100%

子どもの読書活動の推進に関する法律

（平成十三年十二月十二日法律第百五十四号）

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

４　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

２　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

３　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。